

# 蛭子涌 (えびすゆう)

位置図



善通寺市周辺には出水・湧と呼ばれる清水がたくさんあり、旱魃のときにも涸れることなく地域の人々の生活を支えてきました。

そのひとつで、善通寺市の中村町にある「蛭子涌」は、その昔、源三位頼政(1104～1180年)が治承四年(1180年)に現在の多度津町三井に住んでいたころ、地域に良水がなく農業用水も乏しいのを憂いて、加賀神社境内にある毘沙門祠に祈り感じるところがあり、この地を掘ったと云われております。そこからは清水が沸々と湧き出たので、人々は大いに飲んだことから「蛭子涌」(恵比寿涌(湧)とも書く)の名が付いたと伝えられています。(善通寺市史・四箇村史より)

この出水は、多くの市民から“残したい資源”としての保全要望があり、「親しみとうるおいのある水辺空間の創出」の地域振興テーマのもと、平成18年度に農村振興総合整備事業で整備され、朝夕の散策や子供の水遊びの場として地域の人々に利用されているとともに、綺麗な清水は今もこれからも下流の農地を潤し続けております。

